

PURE CHABLIS

One grape
One region
One of a kind

市場情報

日本

市場縮小も、シャブリ/Chablis への忠誠心は健在

日本市場におけるシャブリワインの主要な数字

金額で第4位の市場

数量で第5位の市場

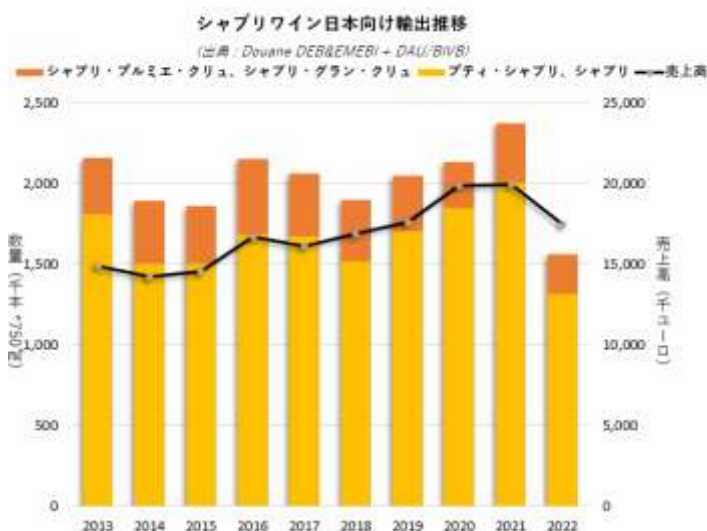
輸出：156万本（対2021年比34%減）、1749万ユーロ（対2021年比12%減）

数量内訳 ▶ シャブリ・プルミエ・クリュ/Chablis Premier Cru とシャブリ・グラン・クリュ/Chablis Grand Cru：16%
▶ プティ・シャブリ/Petit Chablis とシャブリ/Chablis：84%

アメリカ、中国に次ぐ世界第三位の経済大国である日本の2022年は、経済的には複雑な年となった。新型コロナウイルス第7波、ロシアとウクライナの紛争、ドルに対する円安と、所得が増えない消費者にとってはインフレが持続する状態となった。

文化、味覚そして価値観がブルゴーニュのそれと共通する日本で、ブルゴーニュワインは、真の威光を放っている。2022年におけるブルゴーニュ/Bourgogne 白ワインは、フランス産 AOC 白ワインの日本への輸出量の1/3を占め、輸出金額においては半分以上を占めた。なお、シャブリワインの輸出量は、日本に輸出されたブルゴーニュ産白ワインの40%を占めている。

ワインの供給不足による輸出減



2018年から2021年にかけて、シャブリワインは日本市場で本格的な成長を遂げた。しかし、2022年の輸出は、2021ヴィンテージの品不足、消費の減速、ワイン常飲者の高齢化による影響を受けた。こうした背景のもと、2022年の輸出量は対2021年比34%減を記録。輸出金額においては対2021年比12%減で、250万ユーロの減少を記録した。

なお、シャブリのAOCはすべて、次のように減少している。

▶ プティ・シャブリ とシャブリ は輸出量34%減、輸出額14%減。

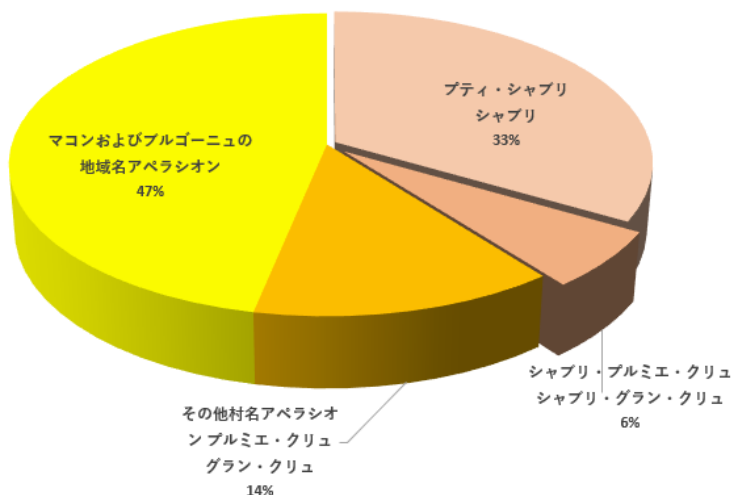
▶ シャブリ・プルミエ・クリュとシャブリ・グラン・クリュは、輸出量 34%減、輸出額 5% 減。

シャブリはブルゴーニュを日本市場で語る上で欠かせない指標

2022 年、ブルゴーニュ ワインの輸出（赤・ロゼ・白合計）に占めるシャブリ ワインのシェアは、輸出量で 22%（日本に輸出されている AOC グループとしては第 3 位）、輸出金額で 13%であった。

2022年 ブルゴーニュ産白ワイン 日本向け輸出量シェア

(出典: Douane DEB&EMEBI+DAU/BIV)



ブルゴーニュ産白ワインの輸出は日本市場で常に大きな位置を占めており、過去 10 年間の輸出量は、54%から 60%の間で変動している。

日本に輸出されるブルゴーニュ産白ワインの 40%を占めるシャブリワインは、日本におけるブルゴーニュ産白ワインの重要性に大いに貢献している。

ワイン・インテリジェンス社の 2022 年調査によると、シャブリワインは、日本で最も購入されているワイン産地ランキングで第 9 位になっている。同調査で、白ワインの品種第 1 位にシャルドネ/Chardonnay が輝き、ブルゴーニュが 4 位にランクインする日本では当然の結果と言える。

ワイン常飲者層が次第に高齢化

2022 年、月に 1 回以上、定期的にワインを飲む日本人の数は 2 670 万人だった。これは日本の成人人口の 26%に当たり、その 3 分の 2 は毎週ワインを消費している。ワイン・インテリジェンス社の調査によると、ワインの定期的な消費者のシェアは、2018 年から 2022 年の間に 12% 減少したと見られる。また、こうした消費者層の高齢化が進み、2018 年の 49%に対し、2022 年には 65%が 55 歳以上になると見られる。ワインを定期的に飲む若い層（20～39 歳）のシェアは 2018 年には 27%だったが、2022 年には 14%を超えることはないだろう。

55 歳以上の層は、他の消費財に比べ、ワインについてはあまり知らないと答えている。一方、若い層はワインに対する高い関心度を示し、オンラインの情報にアクセスしやすいこともあり、年長者よりも多くの情報を持っていると感じ、ワインの世界により深くかかわっている。

ワイン常飲者 1 000 人を対象とした調査によると、最も多く消費するアルコール飲料は赤ワインで、次にビール、3 番手に白ワインが続く。2018 年から 2022 年にかけて、この順位に変動はないが、日本酒やクラフトビールといった飲料の重要性が増している。

日本では、ハイパーマーケットやスーパーマーケットが依然として重要なワインの販売チャネルであり、回答者のほぼ半数が過去6カ月間にこうしたルートからワインを購入したと答えている。過去5年間、酒販店での購入が安定している一方、スーパーマーケットでの購入は鈍化している。

レストランやパブ、バーでのワイン消費量は、過去5年間安定している。当然のことながら、ワイン消費をほぼ平常並みのレベルにまで回復させたのは、40～54歳のワイン常飲者層だった。20～34歳の最も若い層もワイン消費回復へ大きく貢献しており、55歳以上の層を抜いている。

経済的な記述はブルゴーニュワイン委員会 (BIVB) の市場開発部作成 - 2023年3月

(出典 : GTI - Douane - BIVB - MIBD MARKET - Wine Intelligence)

プレス担当 : ブルゴーニュワイン委員会 (BIVB)

シャブリマーケティング・広報担当フランソワーズ・ルール (Françoise Roure)

Tél. : +33 (0) 3 86 42 42 22 – Fax : +33 (0) 3 86 42 80 16 – francoise.roure@bivb.com